

令和 4年 3月 26日

鉾山・建設系分会 会員各位

明専会 東京支部 鉾山・建設系分会
分会長 柿原 利孝 (開46)

総会・春季講演会・懇親会のご案内

拝啓

早春の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、恒例の明専会東京支部 鉾山・建設系分会の総会・春季講演会・懇親会を下記の通り開催いたします。会員が集い懇親・情報交換の機会として、分会で運営する公式行事は今回の総会・春季講演会・懇親会と11月の秋季講演会・懇親会があります。皆様には大変ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席を頂けますようご案内申し上げます。なお、平成卒会員の参加が非常に少なく、今後の運営を危惧しています。鳳龍クラブでの参加が困難な会員もオンラインでの参加もできますので、よろしく願いいたします。

敬具

記

開催日時：令和 4年 6月 11日 (土) 10:30~14:00

開催場所：明専会東京センター 九州工大鳳龍クラブ (新橋)

電話：03-3572-2009

行事予定：総会：10:30~11:00

講演会：11:00~12:30 (質疑15分程度含む)

演題：生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり

講師：九州工業大学大学院 教授 伊東 啓太郎 氏

講演の詳細については、次頁をご覧ください。

懇親会：12:30~14:00

懇親会費 4,000円 (当日ご持参下さい。)

新人会員 1,000円、女性・若手 (35才以下) 2,000円

【事務局からのお願い】

- ・出欠については送付の返信ハガキにて、4月9日までにご返信下さい。参加希望の方は「オンラインで参加」か「鳳龍クラブで参加」のどちらかに○印をお願いいたします。「オンラインで参加」の方には、後日メールにて案内しますので、メールアドレスの記載を忘れずをお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、上記講演会の予定を変更することがあります。その際はあらためて連絡させていただきます。
- ・令和4年度分の分会費2,000円を同封の郵便振込用紙でお納め頂けますよう、お願いいたします。当日、ご出席される方は、会場でもお受けいたします。
- ・通信費節減のため、今後はメールによる案内を主とし、封書での案内を減らしていくことを検討しておりますので、メールアドレスをお持ちの方は、返信ハガキにご記入をお願いいたします。

連絡先：部会長 柿原利孝

(電話 043-211-6977・080-3415-5800、メール tkaki026@jcom.zaq.ne.jp)

令和4年度 春季講演会 講演概要

演 題 : 生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり
講 師 : 九州工業大学大学院 教授 伊東 啓太郎 氏

講演の要旨

私たちは、旅や日常生活のなかでさまざまなランドスケープ（風景/景観）に出会います。ランドスケープが人々の暮らしを体現したものであると考え、私たちは、地域のランドスケープの中の樹木、水辺、森、海辺といった、ひとつひとつの風景に気を配り、その土地の特徴や風土性をデザインに結びつけ、活かしてゆくことが求められます。自然資本を賢く利用し、社会と経済に寄与する国土形成手法をグリーンインフラと呼びます。近年、このグリーンインフラとしてのランドスケープ保全の重要性が指摘されてきています。この概念を先進的に議論し活用してきた EU では、「戦略的に計画・維持され、生態系サービスの提供と生物多様性の保全に資する質の高い自然や半自然生態系のネットワーク」をグリーンインフラと定義しています。

ランドスケープエコロジー（景観生態学）は、陸域や水域を含むランドスケープを科学的に分析、評価し、土地利用、地域計画やデザインに役立てていく学問領域です。私たち九工大の設計・研究グループは、この中で特に地域の特性を活かしたランドスケープのデザインに取り組んできました。地域のデザインを行っていく際、「その土地らしさ」、Vernacular（英）、Milieu（仏）といった国ごとにニュアンスの違いがありながらも近い概念である「風土性」をいかに捉え直し、デザインに取り込んでいくかという重要な課題があります。

特徴的な地域やランドスケープは、そのままでも人を惹きつけ、守られる可能性が高くなります。課題は、私たちの身近にある日常の風景を、歴史や地域の風土のなかにもどのように位置づけ、育ててゆくかにあります。地域性や風土を活かした地域計画には、身近な自然資源の利用・管理のあり方など、自然と人との関わりを考えながら、守りながらときには創り、育ててゆくことが重要になってきます。

ランドスケープデザインの役割は、過去から現在、未来に向けた歴史、文化、環境の姿を翻訳し、デザインとして繋ぎ、表現していくことです。今後、私たちがランドスケープの計画・設計を行っていく際、生態学、土木工学、景観生態学、ランドスケープデザイン、建築など複数の専門家の協働により、グリーンインフラを含めたこれからの都市・地域デザインのありかたについて深い議論ができれば、地域の風土に根ざした豊かな地域景観の保全・創造が可能になります。これから、地域の環境保全手法や優れた地域計画、グリーンインフラのデザインを考えてゆく場合、里山、河川、都市、地域の自然や文化を含んだ風土性のもつ課題を再考し、実践にとりいれてゆくことが重要になってきます。このためには、民間、行政機関との連携に加えて、生態学、土木工学、景観生態学、ランドスケープデザイン学、建築学分野の協働が必要となります。

今回の講演では、九工大で院生・学生のみならず協働しながら、地域のランドスケープ設計の実践を行ってきたプロセスを紹介します。また、近年執筆した著書（「景観生態学」共立出版 2022、Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities, Springer 2021）をもとにグリーンインフラ、ランドスケープを設計対象にする際、風土性を考慮したデザインの実践と課題についてお話したいと思います。みなさまにお会いできることを楽しみにしています。

講師の略歴

1966年長崎市生まれ。長崎県立長崎西高、九州大学農学部卒、同大学院農学研究科博士課程修了。2020年フルブライト研究員/客員教授フロリダ大学（米国）、2014年ベルリン工科大学客員研究員、2001年英国ニューカッスル大学ランドスケープ学科客員研究員。

日本、ノルウェー、ドイツ、米国において、生態学的・知覚心理学的な考えに基づいた環境デザインの実践、設計プロセス、環境教育プログラム開発に関する国際共同研究を行っていらっしゃいます。